

# 小児科学

[講義] 第2学年 後期 必修 2単位

《担当者名》太田 亨 ohta@hoku-iryo-u.ac.jp

## 【概要】

小児は、出生時から思春期に至るまで、身体・神経の発達の段階で、さまざまな疾患や発達障害を生ずる。また、出生直後の新生児の病態は、その後の生涯の生活に影響する。小児の理学療法を学ぶためには、小児の出生からダイナミックに変化する正常発達と、それぞれの障害・疾患を理解していなくてはならない。新生児・乳幼児・学童・思春期における正常と病態を理解し、小児保健学、小児診断学、小児疾患病態学などの知識を修得する。

## 【学修目標】

医療従事者としての、小児の患者に接したとき、その疾患に適切な対応ができるようになる、次のような医療知識を身につける。

1. 出生から、新生児期、乳児期、幼児期、学童期に運動、知能発達のマイルストーンが説明できる。
2. 小児の栄養・バイタルサインが説明できる。
3. 周産期・新生児期特有の疾患が列挙できる。その疾患の将来の影響が説明できる。
4. 先天奇形・染色体異常が説明できる。
5. 小児期の感染症の種類・症状・治療が説明できる。
6. 小児期の免疫異常、代謝異常が説明できる。
7. 小児期の内分泌疾患、思春期に移行する際の異常が説明できる。
8. 小児独特の腎臓疾患が説明できる。
9. 小児の神経疾患、筋疾患が説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	成長・発達・栄養	小児の成長・身体計測・成長の評価・臓器の発育・母乳・栄養について学ぶ。	太田 亨
2	新生児疾患	新生児仮死・呼吸障害について学ぶ。	太田 亨
3	新生児・先天異常	新生児の疾患・染色体異常・先天性奇形について学ぶ。	太田 亨
4	先天異常	染色体異常・先天性奇形について学ぶ。	太田 亨
5	感染症	ウイルス感染症について学ぶ。	太田 亨
6	感染症	細菌感染症・予防接種について学ぶ。	太田 亨
7	免疫異常・アレルギー疾患	免疫不全・喘息・アトピー性皮膚炎などについて学ぶ。	太田 亨
8	呼吸器疾患	クループ症候群・肺炎・喘息性気管支炎などについて学ぶ。	太田 亨
9	循環器疾患	胎児循環・先天性心奇形について学ぶ。	太田 亨
10	代謝性疾患	先天性代謝異常・小児の糖尿病・低血糖について学ぶ。	太田 亨
11	内分泌疾患	低身長・思春期早発症・甲状腺機能異常・尿崩症について学ぶ。	太田 亨
12	血液・悪性腫瘍・中毒・救急医療	白血病・小児の悪性腫瘍・誤飲・溺水について学ぶ。	太田 亨
13	腎疾患・尿路系疾患	小児の急性腎炎・慢性腎炎、先天性の腎・尿路系異常について学ぶ。	太田 亨
14	神経	脳性麻痺・発達異常・痙攣性疾患について学ぶ。	太田 亨
15	神経	筋肉疾患・自閉症について学ぶ。	太田 亨

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

定期試験 100%

**【教科書】**

白木和夫 他 編 「ナースとコメディカルのための小児科学」 小児医事出版社 2014年

**【参考書】**

西 基 他 「New Simple Step小児科」 総合医学社

**【備考】**

Google FormやManabaを活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

**【学修の準備】**

予習は、各時限の講義項目の教科書領域を、一読し理解しておくこと(80分)。

復習は、講義項目のプリント内容を記憶すること(80分)。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP2 . 理学療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

**【実務経験】**

医師

**【実務経験を活かした教育内容】**

小児科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している